

しまね学習支援プログラム
「親学プログラム」
「親学プログラム2」
活用の手引き



令和5年4月



島根県立東部社会教育研修センター
島根県立西部社会教育研修センター

はじめに

近年の都市化や核家族化の進展、価値観の多様化や経済状況の変化など、社会構造の急激な変化による「家庭教育が困難な社会」の中で、行政は家庭教育を積極的に支援するとともに、学校・家庭・地域が連携して、社会全体で家庭教育を支えていくことが求められています。

そこで、県立東部・西部社会教育研修センターでは、平成 24 年 3 月に、家庭教育支援のひとつの手法として、参加型学習を活用した「しまね学習支援プログラム『親学プログラム』」（以下「親学プログラム」）を開発しました。同時に「親学プログラム」を進行するファシリテーターを養成する「親学ファシリテーター養成講座」を実施し、県内各地域で開催される「親学プログラム」を活用した研修・講座等へ「親学ファシリテーター」を派遣してきました。「親学プログラム」を活用した研修・講座の参加者からは、「気軽に子育てについて考えることができる」「親同士の関係づくりにも役立つ」といった声をいただいています。

平成 25 年度からは、「親学ファシリテーター」の養成及び派遣を市町村主体に移行、各市町村の実態に応じて進めていただくようにし、当センターは親学ファシリテーター養成講座からフォローアップ研修、親学プログラム活用に関する情報収集、提供等、市町村の取組を積極的に支援しています。

さらに、平成 25 年度から 3 年間事業として、「親学プログラム 2」の開発と地域人材の育成事業に取り組みました。「親学プログラム 2」では、「親学プログラム」がねらう“親とわが子の関係性”における気づきのみならず、“他の子・他の親・学校・地域等との関係性”における気づきに重点をおき、「親学プログラム 2 [試行版]」を経て、平成 27 年度に「親学プログラム 2 [実施版]」を完成させました。

このような経緯で当センターが開発した「親学プログラム」「親学プログラム 2」が、市町村等で広く活用されることをめざして、ここに「親学プログラム」「親学プログラム 2」に関する基礎的な知識や活用事例など、参考となる情報をまとめた活用の手引きを作成しました。

この手引きが、市町村における「親学プログラム」「親学プログラム 2」の普及・定着のための取組の一助となり、市町村における家庭教育支援の取組がますます充実することを願っています。

目次

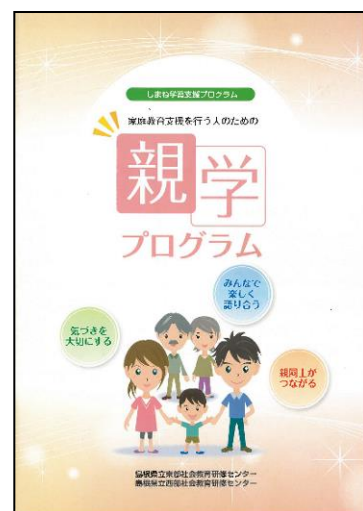
はじめに

1	「しまね学習支援プログラム」「親学プログラム」「親学プログラム2」って何？	1
2	なぜ家庭教育支援に「親学プログラム」なの？	2
3	「親学プログラム」「親学プログラム2」の特徴は？	2
4	なぜ、「参加型学習」「ワークショップ形式」なの？	3
5	「親学ファシリテーター」ってどれくらいいるの？	4
6	「親学ファシリテーター」でなければ「親学プログラム」は進行できないの？	4
7	これまでの「親学プログラム」「親学プログラム2」の活用状況は？	5
8	これまでの特徴的な取組は？	8
9	「親学ファシリテーター」をコーディネート（派遣）するときに気をつけることは？	19
10	「親学プログラム」と「親学プログラム2」の違い・関係は？	20
11	「親学プログラム」「親学プログラム2」の教育的な効果は？	21
	参考文献	25

1 「しまね学習支援プログラム」「親学プログラム」「親学プログラム2」って何？

本県では、各地域で社会教育の取組が活発に行われています。その取組の基盤となる住民の「学び」は、地域の公民館等によって支えられています。その公民館等の職員から「住民が気軽に参加でき、意見交換をしたり、仲間を増やしたりする学習活動を企画したい」「簡単にできる参加型学習のマニュアルがほしい」といった声が以前から当センターに寄せられていました。このような要望に応えるために、当センターでは、地域のさまざまな課題に対応し、参加型学習の手法を取り入れた「しまね学習支援プログラム」の開発に取り組むことにしました。

まず、平成 19 年度から開発に取りかかったのが、喫緊の社会的な課題である家庭教育支援のための学習プログラムです。下記の表のとおり、いくつかの試行版を経て、平成 24 年 3 月に完成したのが「しまね学習支援プログラム 家庭教育支援を行う人のための親学プログラム」（通称「親学プログラム」）です。



「親学プログラム」



さらに、平成 25 年度からは、文部科学省の事業『公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム』の委託を受け、「いじめや児童虐待予防に対応した親向け学習プログラム」として新たな「親学プログラム」である「親学プログラム2」の開発に取り組みました。そして平成 26 年度には、新たに 20 の学習プログラムを開発し、「親学プログラム2 [試行版]」として完成させ、試行実施をスタートしました。プログラムの検討修正を繰り返し、平成 27 年度には、「親学プログラム2 [実施版]」を完成させ、現在「親学プログラム」とセットにした活用をすすめています。

「親学プログラム」「親学プログラム2」開発の流れ

H19	「しまね学習支援プログラム 乳幼児の健やかな成長のための親学講座 ～標準進行マニュアル～ [試行版]」完成
H20	「しまね学習支援プログラム 乳幼児の健やかな成長のために ～親学講座標準進行マニュアル～」完成 ※県内保育所、幼稚園、小学校、公民館、子育て支援センター、教育委員会等に配布
H22	「しまね学習支援プログラム 親学プログラム [試行版]」完成
H23	「しまね学習支援プログラム 家庭教育支援を行う人のための親学プログラム」完成 ※県内保育所、幼稚園、小学校、公民館、子育て支援センター、教育委員会等に配布
H26	「しまね学習支援プログラム 親学プログラム2 [試行版] ～いじめや児童虐待から子どもたちを守るために～」完成 ※県内教育委員会、関係機関、市町村担当者、社会教育主事、親学ファシリテーター等に配布
H27	「しまね学習支援プログラム 親学プログラム2 [実施版]」完成

2 なぜ家庭教育支援に「親学プログラム」なの？

家庭環境や親の価値観の多様化・地域社会の変化を背景として、子どもの育ちに関わる様々な課題が指摘されています。こうした中、平成 18 年の改正により教育基本法に家庭教育支援が国と地方公共団体の責務として明記されました。

「つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～」(平成 24 年 文部科学省「家庭教育支援の推進に関する検討委員会」)によると、国および地方公共団体が取り組むべき家庭教育支援の方策として次の 4 つが挙げられています。

- ①親の育ちを応援する学びの機会の充実
- ②親子と地域のつながりをつくる取組の推進
- ③支援のネットワークをつくる体制づくり
- ④子どもから大人までの生活習慣づくり

①の具体的な内容として「親同士の学び合いや仲間づくりの機会を提供し、子育てへの自信や対処能力を持たせることができるような、当事者の主体性を重視した、体験型・ワークショップ形式の学習を工夫したプログラム」の作成が必要であると述べてあります。

これに当てはまるのが、まさに「親学プログラム」「親学プログラム 2」と考えます。

3 「親学プログラム」「親学プログラム 2」の特徴は？

「親学プログラム」「親学プログラム 2」は、乳幼児から中学生の親（保護者）を対象とした学習機会（研修・講座・懇談会等）に活用できる学習プログラムです。参加型学習の様々な手法を用いて、参加者同士が交流しながら、ともに活動することを通して、親（大人）としての役割や子ども（子どもたち）とのかかわり方の気づき・親同士のつながりづくりを促すことをねらいとしています。

「親学プログラム」は、7つのテーマに分かれた 26 のプログラムから、「親学プログラム 2」は、4つのテーマに分かれた 20 のプログラムからなっており、一つ一つの学習プログラムは「進行表」「進行マニュアル」「ワークシート」で構成しています。

各地域で家庭教育支援に携わる方々が、誰でも気軽に活用できるよう、「進行表」「進行マニュアル」に“時間配分”“留意点”“台詞”などを記載しています。また、「ワークシート」は、コピーして活用できるようにしています。また、これらの資料は、当センターのホームページにも掲載していますので、プリントアウトして活用していただくことができます。

ただし、プログラムは、あくまでも『標準』の形態で作成していますので、「学習のねらい」「子どもの年齢」「参加する親（保護者）の人数や実態」「実施可能な時間」「会場」等に応じて、場にあった形態を検討の上、ご活用ください。

プログラムを作成される際には、社会教育研修センターにもご相談ください。

4 なぜ、「参加型学習」「ワークショップ形式」なの？

家庭教育支援が、家庭や地域の意識・行動、社会的課題等に与える影響を評価・分析した『平成 23 年度 家庭教育支援の効果に関する調査研究 報告書』（株式会社三菱総合研究所）の中で、ワークショップや体験形式の家庭教育支援講座を経験した保護者と経験していない保護者を比べた分析があります。

分析結果では、下表にある調査項目の全てにおいて、経験した保護者群が、経験していない保護者群に比して高い効果を示しています。

【調査項目】

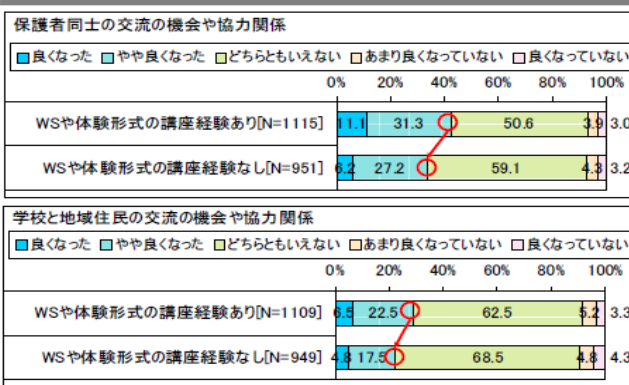
- あなたは、以下のような項目についてどの程度当てはまると思いますか。
「子育てに必要な知識や意欲を有している」「子育てに対して悩みや不安、孤立感を感じる」「家族で協力しながら子育てができていく」「学校と協力しながら子育てができていく」「地域とつながりを持ちながら、子育てができていく」「子育てに関して必要な情報を必要なときに入手できている」「子育てに関して必要なときに身近な相手に相談できている」
- あなたはお子様を通う学校での以下のような項目に関して、どの程度満足していますか。
「日頃からの子どもについての先生との情報共有」「子どもの教育や子育てに関して悩んだときの相談のしやすさ」「保護者同士の交流の機会や協力関係」「学校と地域住民の交流の機会や協力関係」
- あなたは、子育てに関する地域のサポートに関して、どの程度満足していますか。
「子育てに関する情報提供」「子育てに関する学習機会」「他の保護者との交流の機会・ひろば」「子育てに関する電話相談や相談機関」「子育て経験のある人や専門家による訪問等の定期的なサポート」「地域住民の子育てに対する協力」「地元企業や事業所等の子育てに対する協力」

※ゴシック体は、特に有意差がみられたもの

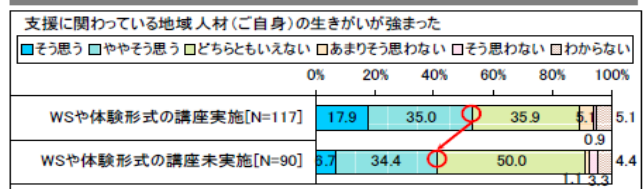
3 調査結果～講座型：WS・体験形式の効果～

- 「ワークショップ(WS)や体験形式など保護者が主体的に参加できる」内容の講座は、そうでない講座に比べ以下の傾向がある。
 - 家庭の効果:「保護者同士の交流機会や協力関係」、「学校と地域住民の交流機会や協力関係」、「必要な情報の適時入手」、「支援人材の生きがいの強まり」などで、効果が相対的に大きい(保護者調査)(※1)
 - 地域の効果:「地域人材(支援者)の生きがいの向上」で、効果が相対的に大きい(支援者調査)(※2)

図表 WSや体験形式の講座経験別効果(保護者調査)



図表 WSや体験形式の講座実施別効果(支援者調査)



- ※1: 一方、「悩み・不安・孤立感の軽減」で相対的に効果が小さい(教職員調査(▲8pt))
- ※2: 一方、「地域人材の地域の子育てへの参画」で相対的に効果が小さい(支援者調査(▲15pt))

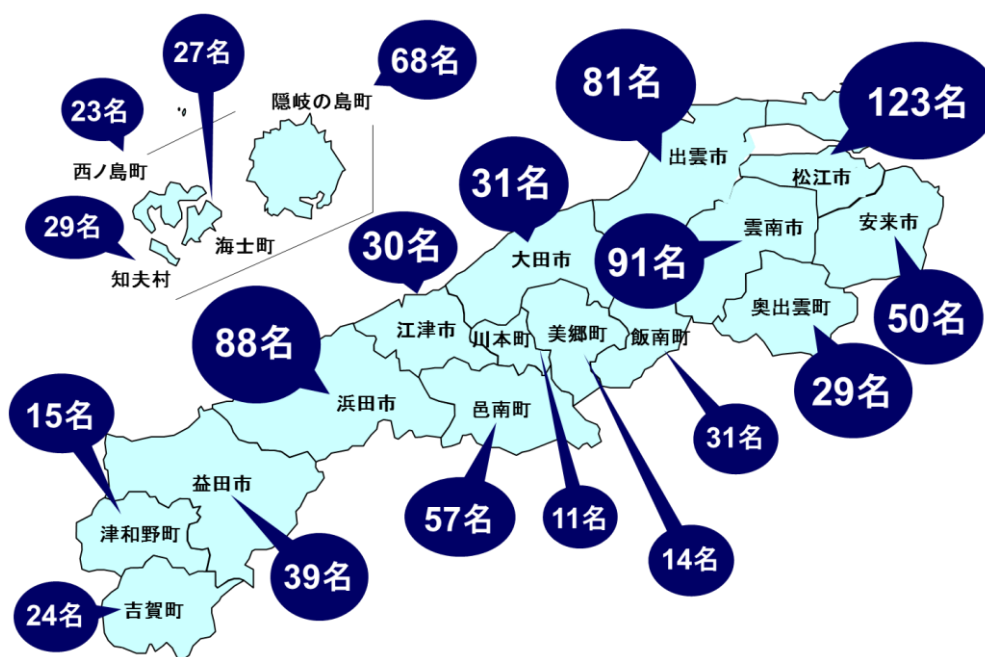
5 「親学ファシリテーター」ってどれくらいいるの？

ファシリテーターとは、参加者の積極的な参加を促し、参加者相互のコミュニケーションが円滑に行われる環境をつくるために、「司会者」「支援者」「道化役」などの複数の役割を担う進行役のことを言います。

本センターでは「親学プログラム」の開発と同時に、プログラムを円滑に進行できる「親学ファシリテーター」を養成する「親学ファシリテーター養成講座」を実施してきました。また、平成26年度からは「親学プログラム2」に対応できるファシリテーターの養成講座も実施してきました。

「親学ファシリテーター養成講座」では、平成22年～24年度に、合計274名の「親学ファシリテーター」を県内の全市町村にバランスよく養成し、県立東部・西部社会教育研修センターより修了証を授与しています。平成25年度以降は、各市町村が主体となって「親学ファシリテーター養成講座」を実施し、本センターが研修の助言、支援する形をとっています。その結果、新たに587名の方が講座を修了され、「親学ファシリテーター」は**合計861名（令和5年3月現在）**となりました。

【市町村別「親学ファシリテーター」養成者数】【令和5年3月現在】



6 「親学ファシリテーター」でなければ「親学プログラム」は進行できないの？

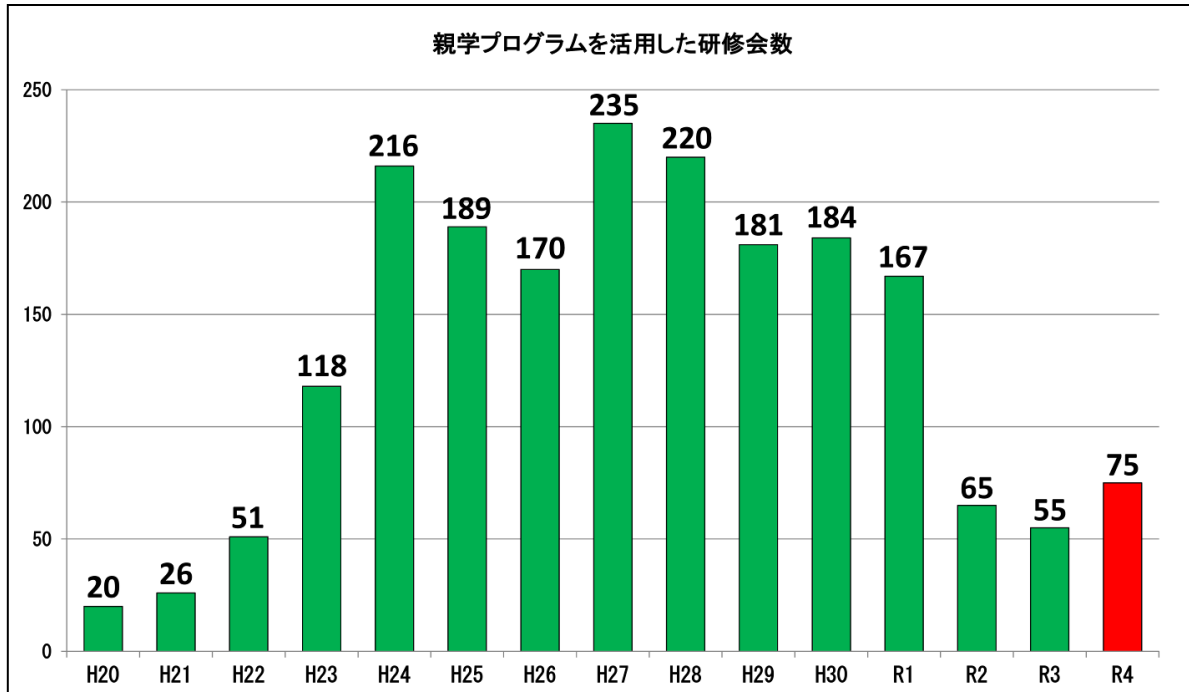
「親学プログラム」「親学プログラム2」は、地域のどなたでも活用できるようにという意図で開発しており、親学ファシリテーターでなければ活用・進行することができないというものではありません。ただし、「親学プログラム」「親学プログラム2」を円滑に進行するためには、プログラムの意義やねらいをきちんと理解した上で、ファシリテーション（進行）の計画を立てる必要があります。

新たに「親学プログラム」を円滑に進行できる人材を養成する場合、あるいは、「親学ファシリテーター」の方を対象にしたフォローアップ、ブラッシュアップを検討される市町村は、企画・計画段階から、本センターにぜひご相談・ご依頼ください。

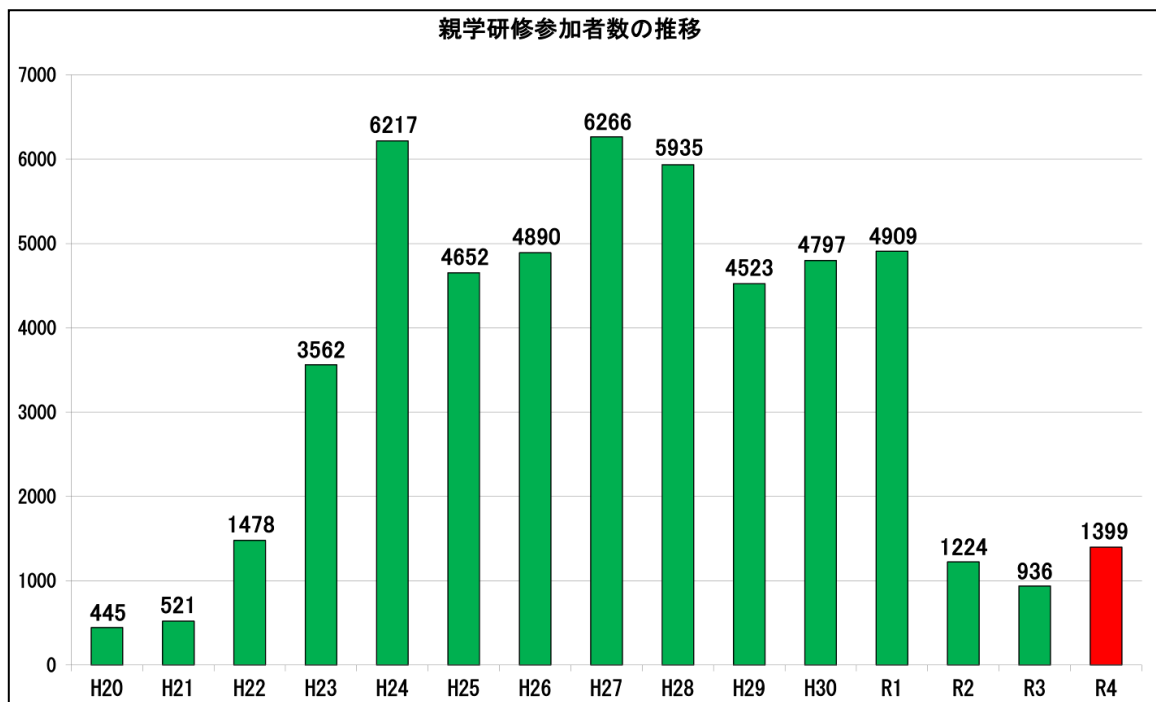
7 これまでの「親学プログラム」「親学プログラム2」の活用状況は？

平成20年度からの「親学プログラム」を活用した研修・講座の開催数と参加者数の推移は次のグラフのとおりです。

「親学プログラム」「親学プログラム2」を活用した研修・講座の開催数の推移



「親学プログラム」「親学プログラム2」を活用した研修・講座の参加者数の推移





※開催数、参加者数とも本センターが把握している数です。このほか、実際には「親学ファシリテーター」等が地域や現場で活用されている場合があります。

「親学プログラム」「親学プログラム 2」を活用した研修・講座の場や機会

令和4年度に「親学プログラム」「親学プログラム 2」を活用した研修・講座がどんな場や機会に開催されているかをまとめると次のようになります。

	PTA研修	学校保健委員会	職員研修	管理職研修	地区懇談会	就学時健康診断保護者研修	1日入学保護者研修	公民館事業	通学合宿	子育てサークル	事業等	放課後子どもプラン	妊娠期パパママ教室	青少年育成会議	その他研修	計
保・幼	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	9
保・幼・小	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
小学校	10	1	0	0	0	18	5	0	0	0	0	0	0	0	0	34
中学校	0	2	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6
小・中学校	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
各校PTA(単P)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
広域PTA	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
公民館等	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
社会教育施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
子育て支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7	0	0	0	0	10
市町村	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
島根県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
計	22	4	2	0	0	18	9	1	0	4	8	0	0	0	7	75

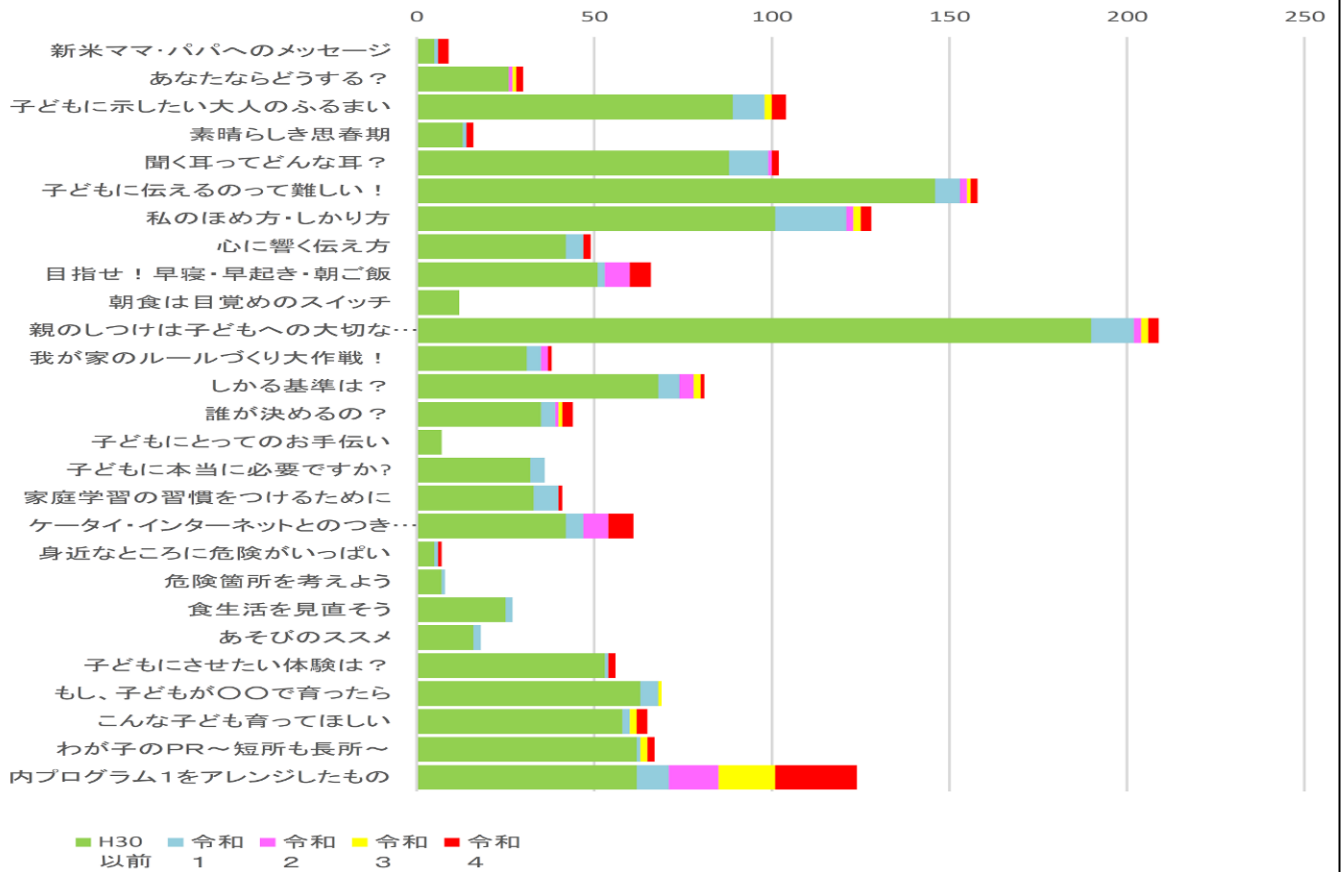
 はベスト10位

 はベスト3

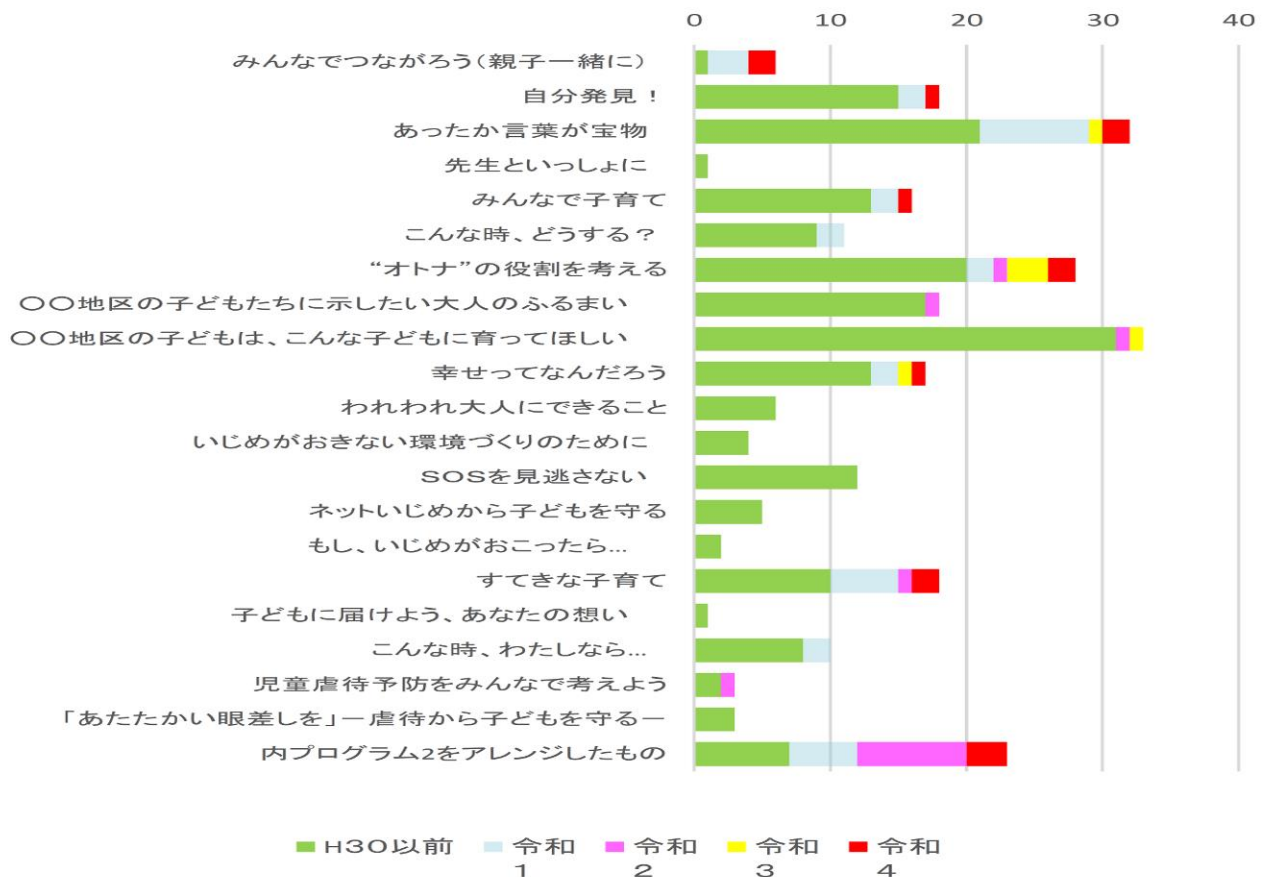
研修で活用された「親学プログラム」「親学プログラム 2」

次に、平成22～令和4年度に、「親学プログラム」の26プログラム、「親学プログラム2」の20プログラムのどのプログラムがどれくらい活用されているかをまとめると次のページのグラフのようになります。「親学プログラム」ではすべてのプログラムが活用されていますが、プログラムをアレンジして活用するケースも増えています。

研修で活用された親学プログラム



研修で活用された親学プログラム2



8 これまでの特徴的な取組は？

現在では、家庭教育支援施策の中で、親学プログラムを積極的に活用しようとする市町村も増えています。特徴的な取組を紹介します。

(1) PTA 研修、PTA 懇談会、保護者会での活用

【知夫村での取組】

親学の今!

【知夫村】編

知夫村では、保護者同士のつながりを深めるため親学ファシリテーターである、はぐくみ寮のハウスマスター(以下HM)が活躍しています。今回は、その取組の様子を紹介します。

① スタッフの意識を共有しよう!

コミュニケーションツールとして、様々な場面や相手に活用できると感じました。まずは、HM同士での練習会を実施しました。お互いの価値観や思いを分かり合える機会となりました。



長田 亜美さん



余島 純さん

HM3人での情報共有やお互いの子どもへの関わり方のスタンスの確認をするのに役立つなと思いました。養成講座の後に職員同士でプログラム実施の練習会をするようになりました。

※知夫村“はぐくみ寮”のHMとは？

島留学小中学生が生活するはぐくみ寮のHMは、寮母さんのように、健康管理や食事を提供するだけでなく、生活ルールづくりや関係づくりのコミュニケーションをサポートするなど、子どもたちが暮らしから学ぶ拠点づくりを推進する役割を担っています。

② 入寮式がチャンスだ!

元々HMたちの課題意識の中に、「保護者との関係をもっと深めたい!」「はぐくみ寮の様子を知ってほしい!」というものがありました。

そこで、はぐくみ寮へ送り出す保護者に、少しでも安心してもらえるように、入寮式で親学プログラムを活用することに決めました。

③ 寮オリジナルにアレンジして!

入寮式では、保護者に寮の様子や私たちHMの思いを知ってもらうことを大切に、寮オリジナルのプログラム案を作成・実施しました。寮の様子を知ってもらうために、実施場所を子どものいる寮とし、アイスブレイクは寮で流行っていた遊びを行うなどの工夫をしました。

実施したプログラムは、「わが子のPR～短所も長所～」と「我が家のルールづくり大作戦!」です。また、保護者とHMとの関係が深まるように、ファシリテーター役のHMも参加者として意見を出すことにしました。

④ 親だけでなく子どもも!

保護者との実施後、はぐくみ寮の子どもたちも同じプログラムを実施しました。親学のテキストを子どもたちに渡し、それを見ながら子どもたちで進行していく形をとりました。すると、子どもたちも十分内容を理解して、話し合いによって「はぐくみ寮のルール」を作りました。



⑤ 活用して思ったこと!

HMとしてのスタンスや大切にしていることが伝えられる場面でできて良かったです。自分たちの意見を保護者の方が受け止めて、意見にまとめてくれたことが嬉しかったです。(余島 純さん)

親学プログラムを実施することによって、保護者との距離が縮まったように思います。自分たちの子どもたちへの関わり方や、保護者の考えや思いが互いにわかりあえたことで関係性づくりに大いに役立ちました。活用しやすいプログラムだと実感しました。(長田 亜美さん)

(2) 職場で親学

【島根県の取組】

親学プログラム活用紹介

【島根県の取組】

企業 と 連携 職場で親学!!

島根県では、企業等と連携して社員研修等に「親学プログラム」を活用した出前講座(無料)をおこなっています。研修には親学ファシリテーター(進行役)を派遣し、働く親御さんやこれから親になる方へ「オトナの学びの機会」を提供しています。

■親学プログラムは、“自分”や“子育て”をふりかえりながら
他の人と関わる楽しさを感じる時間をつくれます。

何でも言える
関係づくり
会話を促す
子育て経験者の
知恵を伝授

コミュニケーション
力UP
他者への接し方や
自分をふり返る

悩みや不安の解消
本音を言い合い
相互理解が深まる

職場に対する
安心感
意欲につながる

家庭の安心

職員の元気

職場の活力

講座実施
の流れ

申し込み

日時・内容を
相談決定

講座開催

報告書の提出

お問い合わせは、教育庁社会教育課(0852-22-5428)まで

実施された企業等の紹介

- 株式会社 ワコムアイティ
- アサヒ工業 株式会社
- 株式会社 長岡塗装店
- 松江少年鑑別所
- 社会福祉法人 整肢学園
- 島根県看護協会
- 松江市役所職員
- 島根県 健康福祉部青少年家庭課



しまねの社会教育だより NO.24 より

(3) 親学プログラムにひと工夫

【出雲市での取組】

出雲市 “ほめる”も“しかる”もコミュニケーション

“ほめる”ことって意外と難しい？

中部幼稚園の先生方と親学プログラムの打ち合わせを行っている中、「保護者さんからほめることって意外と難しいという話を聞くよね」「しかり方に合わせてほめ方についても語り合ってもらえる場があるといいね」という意見が挙がりました。

その声をきっかけに、親学プログラム4-④「しかる基準は？」をアレンジして、「しかる基準は？ほめる基準は？」というタイトルで、ワークの流れやワークシートの内容を検討していきました。出雲市親学ファシリテーター連絡会では、アレンジ内容の事前演習をしながら、本番に向けて意見交換を行いました。



これからの関わり方を見つめ直す

研修会当日、ほめる場は、「描いた絵を持ってきて、アピールしてきた」「近所のおじさんに自分から挨拶をした」など4つの場面を想定し、ほめ方についても意見交換を進めていきました。保護者からは、「ほめるもしかるも、まずはコミュニケーションが大切だ」「自分の心に余裕を作り、日々の会話の中から我が子の良いところを見つけていきたい」などという声が届きました。

保護者の実態を踏まえて「しかり方」に加え、「ほめ方」をテーマにしたプログラムを展開することで、より前向きに子どもに関わっていこうとする気持ちを高める機会となりました。

「ほめるの基準は？」ワークシート【幼稚園用アレンジ】
下記の項目について、あなたなら我が子にどのように
かかわるかを考え、A～Eでランクをつけてください。

子どもの様子	あなた
①近所のおじさんに自分から挨拶をした。	
②自分の描いた絵を持ってきてアピールしてきた。	
③「牛乳がもう」「牛乳がもう」を繰り返す。	
④子どもを相手に交す時、先生方の「牛乳」「牛乳」を喜んでくれる人です。」と言われた。	
⑤思えば来た前、笑っている（笑っている）笑顔に優しく声をかけている姿を見かけた。	

しまねの社会教育だより NO.33 より

【浜田市での取組】

浜田市 HOOP! (浜田親子共育応援プログラム) の取組

専門家のアドバイスも聞きたい!

浜田市では、小学校入学前の保護者を対象とした親学プログラムの必要性から、独自の乳幼児期版プログラムを開発し、従来の「親学プログラム」「親学プログラム2」と合わせた「HOOP!」(浜田親子共育応援プログラム)を誕生させました。

新たに開発したプログラムには、「交流や活動だけでなく、専門家からの話やアドバイスも聞きたい」という参加者の声もあり、参加型学習の中で専門家のお話を聞くアドバイスタイムを加えています。心の発達やメディア接触に関するプログラムでは、医師や保健師がアドバイザーを務め、参加者の疑問に答えながらより専門的な立場での話をします。参加者からは、「わかりやすい説明で説得力があった」という声が聞かれています。

HOOP! 浜田親子共育応援プログラム

乳幼児期・児童期の親（保護者）
対象プログラム

1. 親子のコミュニケーション

- ① 大切だね！親子のきずな！
- ② 考えよう！メディアと子育て
- ③ やってみよう！親子体感遊び
- ④ うちの子どんな子？
～絵本を通して見えてくるもの～

2. 小学校入学に向けて

- ① ドキドキ・ワクワク 小学生！
(浜田市オリジナル親学プログラム)

ファシリテーターとともに新たなプログラム開発

昨年度浜田市では、家庭教育支援が各地域においてチームとして推進されるよう、モデル地区を設定しました。その1つの石見まちづくりセンターは、「家読」をテーマとした親学プログラムの開発に取り組みました。主事やファシリテーターらで何度も会議を重ね、絵本専門士としまね子どもの読書等推進の会の会員をアドバイザーとするプログラムを作り上げました。その後、市内の小学校で試行しながら内容をさらに充実させ、市内全体でも実践できるプログラムとなりました。このように、ファシリテーターや専門家、地域住民がプログラムの開発に関わっていることもHOOP!の特色の1つとなっています。



しまねの社会教育だより NO.33 より

(4) オンラインでの活用

【知夫村での取組】

知夫村 島留学の県内外親同士のつながりづくりに

つながる場を設けたい

知夫小中学校では、島留学を希望する子どもを県内外から受け入れています。これまで、子どもたちの親同士が一堂に会することができる春、親同士のつながりづくりや子どもたちを預かる寮のハウスマスター（寮スタッフ）との関係づくりのために、親学プログラムを活用し顔合わせ会をしてきました。

ところが、昨年度はコロナ禍のため、顔合わせ会ができませんでした。そこで考えたのが、オンラインでの顔合わせ会。オンラインで親学プログラムをやることで話が進み、ハウスマスターと教育委員会で実施時期やプログラム内容の検討を重ねました。



オンライン交流!いろいろ

昨年は、時期は遅くなりましたが、9月に「帰省した我が子の成長や変化」をテーマに、フリップを使ってオンライン親学を行いました。離れて暮らす我が子の成長に対して、親同士がお互いの喜びや不安を分かち合うことができました。

さらに、今年の春には、子どもと一緒に「島留学で大切にしたいこと（してほしいこと）」をテーマに、総勢20名のオンライン親子懇親会を行いました。親からの期待の声を聞き、照れながらも喜んでいる子どもの姿も見られました。様々な思いや願いに触れることで、一人一人の考えを共に大

切にしていこうとする場になりました。

帰省時に、港で抱き合っただけで再会を喜ぶ親子の姿はもちろん、子どもの帰りを待つ間、初対面であるはずの親同士の弾む会話が広がっていたことも印象的でした。

しまねの社会教育だより NO.33 より

(5) イベントの中で親学

大田市 親子で参加できる、楽しい地域のイベントとして



色紙を手にして記念撮影

親学での気づきを他の活動と結びつけ、見える形で表現

川合まちづくりセンターでは、「～子育てばんざ～い!親のしつけは子どもへの大切な贈り物～」と題し、小学生保護者を対象に短い時間での親学を実施しました。まとめとして、それぞれが決めた「我が子に贈りたい言葉」を書の達人に指導を受けながら色紙に筆で書きました。

親子のつながりを育む

この日は、クリスマス会として親子での参加を呼びかけており、保護者が親学や色紙づくりをしている間に子どもたちは遊びのコーナーで楽しんでいました。親子が合流してから、色紙に子どもの手形を押し、クリスマス会の中で保護者が全体に見せながら贈る言葉とそこに込めた思いを紹介し、我が子へプレゼントしました。

楽しいイベントに親子で参加しながら、保護者が我が子への思いを見つめ直すとともに、その思いを我が子へ伝えるという一連の場を設定したことで、親学での学びをすぐに次の行動へとつなげることができました。周りの人達に見守られながら、親子の関係もさらに深まったのではないのでしょうか。

しまねの社会教育だより NO.33 より

(6) 福祉部局と教育委員会が連携した活用
【川本町での取組】

親学プログラム活用紹介 〔川本町〕

K awamoto
かわもと

P okapoka
ぽかぽか

O yako
親子

P roject
プロジェクト

川本町では、安心していろいろな人とかかわりながら子育てを行うために、家庭教育支援の1つとして、親学プログラムを取り入れた“K-POP”（かわもと ぽかぽか 親子プロジェクト）に取り組んでいます。

■これまでの親学の現状と今後

親学の単発実施

保育所や学校等からの依頼待ち

町内親学ファシリテーターの活躍の場が少ない

シリーズ実施により効果を高める

健康福祉課と教育委員会との連携

K-POP

親子活動と親学を組み合わせる

親学ファシリテーターの研修機会をつくる

家庭教育支援の充実へ

「市町村社会教育担当者研修」(H27当センター主催研修)に、川本町の健康福祉課と教育委員会の職員が参加し、家庭教育支援に関する事業を洗い出し、互いに連携できる点はないか話し合いました。

また、公民館や教育委員会で別々な事業として行っていた“親子活動”と“親学講座”を組み合わせるなど、子どもだけでなく、保護者や地域の方が楽しくゆるやかにつながるように、家庭教育支援を意図的に進めています。

“事業” × “親学講座” × “シリーズ実施”

さらに効果UP!つながりUP! 家庭教育支援の充実へ!!

“あそびのひろば&乳幼児相談”と組み合わせ(年3回)



“親子活動”と組み合わせ(年4回 春・夏・秋・冬)



春 山菜採りウォーキング & クッキング

夏 川遊び

秋 鮭の観察会&芋煮会

冬 スポーツ鬼ごっこ

しまねの社会教育だより NO.23 より

【吉賀町での取組】

【吉賀町の取組】

吉賀町では「サクラマスプロジェクト」を教育の核として、すべての子どもを対象に地域で様々な取組をしています。その中で平成29年12月の「だっこっこトーク」の様子を紹介します。

Step0

「だっこっこトーク」

3年前から始まったこの取組は、乳幼児検診後、0歳児の親を対象に、“抱っこしながら何でもしゃべろう会”として始まりました。親同士が知り合うきっかけづくりと、日頃の思いを語り合う場の提供をしています。今回は、親学ファシリテーター2名が進行と支援の役割を分担し、抱っこしながらでもできるプログラムにアレンジして、参加された方の思いを引き出していました。

Step1

次のステップは・・・

- ・ 保育所の保護者会で
- ・ 就学前検診の保護者説明会で
- ・ 学校のPTA研修で
親学プログラムを体験します。

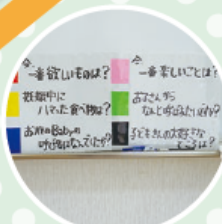
つなげる

いかす

いかす

ファシリテーター ふり返りの会

親学プログラム実施の際ファシリテーターは、メイン・サブ・記録の3人体制で臨み、実施後はふり返りをしています。この時の記録をもとに年3回行われるファシリテーターの全体会で話し合い、次のワークショップを改善していきます。



サイコロをつかって話すテーマを決めました！



自然と情報交換に！

しまねの社会教育だより NO.26 より

【江津市での取組】

【江津市の取組】

江津市では子育て中の悩みや体験などを共有したり、みんなで考えたりする「子育て座談会」を開催しています。

移動式の子育てカフェ

より多くの方が気軽に参加できるように、江津市を大きく4つのエリアに分け、「移動式の子育てカフェ」として開催していきます。



新米ママ・パパへのメッセージ



11月、市内西部の寺院にある「寺カフェ」で開催しました。この場の進行は親学ファシリテーターのみなさんです。親学プログラムで和やかな関係をつくり、お茶を飲みながら日頃の子育てについての語りの場になります。

子育ての先輩から、おすすめの遊び場についての情報提供や子どもとの接し方についてアドバイスがあるなど、あたたかい時間が流れています。

当日は、都合のつく親学ファシリテーターも集まり、ファシリテーター同士の研修・情報交換の場にもなりました。

これからも、より多くの方が気軽に参加できるように、子どもとできる軽スポーツを組み合わせた、福祉部局と連携したり、様々な相談に幅広く応えられるようにしていきたいと考えています。

しまねの社会教育だより NO.26 より

(7) 親学ファシリテーターのスキルアップ・ブラッシュアップ

【出雲市での取組】

親学の今!

【出雲市】編

出雲市では、ファシリテーターの会と教育委員会が連携し、“好循環”する仕組みをつくっています。

今回は、その取組について紹介します。

出雲市では、家庭教育支援の充実のため、親学プログラムを活用しています。その際、市内のファシリテーターで構成した「親学ファシリテーターの会出雲」の方々が、保護者研修会等で意欲的に活動しています。このファシリテーターの会は、教育委員会と連携しながら、自立・自走できる組織を目指しています。また、親学プログラムは、学校だけでなく地域でも取り込まれ、活動が地域に根付いてきています。

◎ファシリテーターの会が養成講座に参画!

出雲市では、この3年間で親学ファシリテーター養成講座を4回開催しました。そのうち2回は親学プログラム2も行い、計画的にファシリテーターを養成しています。また、地域のファシリテーターのみなさんがスタッフとして養成講座に参画することで、人材育成の好循環が生まれています。



◎ファシリテーターの会の月例連絡会を実施!



出雲市教育委員会では、毎月「親学ファシリテーターの会出雲」を中心としたファシリテーターの皆さんと教育委員会の担当者で、連絡会を行っています。そこでは、実施された研修会の報告や今後の活動の確認、アイスブレイク研修などを行っています。活動を振り返ることにより、悩みを共有したり、解決策について話し合ったりして、お互いのスキルアップを図っています。また、連絡会を通して、ファシリテーター同士の親睦を深めています。

◎PTAと地域が連携し、研修会をシリーズ化!

西田地区では、小学校を中心として親学プログラムを使った講座をシリーズ化しています。この講座は、家庭・地域・学校が一緒になって学び合いたいと始まりました。講座は年3回行われ、参加した地域の方にも、好評を得ています。



出東地区では、コミュニティセンターの子育て部と小学校 PTA 家庭教育部が連携した「子育ての集い」が毎年行われています。その中で親学プログラムが活用され、地域の家庭教育支援の充実につながっています。

毎月の連絡会や養成講座への参加・参画による、地域のファシリテーター同士のつながりを大切にしています。そして、出雲市内の多くの場所で、親学プログラムを通して子育てについて話してもらいたいと思います。

西田家庭教育 支援講座だより

令和4年9月30日
100名
場所 山形 研修

第14回西田家庭教育支援講座を開催!

9月19日(木)に西田コミュニティセンターを会場に第14回西田家庭教育支援講座を開催しました。この講座は、平成27年度より西田中学校の子どもたちの親や中・高生を講師に、大人(親)としてどのようなかわり方をしていけばよいのかを家庭・地域・学校が一緒になって学び合おうと始まった講座です。

第14回目となる今回の講座は、テーマ『子育てを学ぶ』と題して、『日々の子育ての中で、イライラすることやストレスを感じる子どももいますが、子育てのできる思い出しを聞き合おうや、楽しく子育てしていこうとする家庭を高めること』をわらわらとした講座でした。

しまねの社会教育だより NO.30 より

親学の今!

【邑南町】編

邑南町教育委員会では、平成29年度・30年度「親学ファシリテーター養成講座」を独自に開催しました。今回は、その様子と養成に込めた思いを紹介します。

邑南町教育委員会では、家庭教育支援の一つとして親学を推進していくことを大切にしています。そのために親学ファシリテーターを養成する必要性を感じていました。地域住民からは「親学プログラムに興味があり、学んでみたい」という声も聞かれていました。しかし、これまでは実際に養成講座を計画しても、参加者が集まりませんでした。

「その日は仕事の都合がつかない」「まとまった時間を取ることができない」「丸一日仕事を休むのは難しい」…
そこで…

● 養成講座の実施にひと工夫を加えて…

“どうしたら養成講座に来てもらえるのか”を考えました。そして、受講者のニーズに合わせて次のような工夫をしました。

- 講座を複数回に分ける
- 1回の講座は2時間
- 時間帯は仕事に影響の少ない夜
- 全ての回に参加できなくても、都合のよい回だけ参加することもOK!

多くの人に参加してもらいたいという願いを込めて、講座内容を5回（導入編2回、演習3回）に分けて行いました。そして、目的意識をもって学んでほしいと考え、特別編として、実践する場（PTA・地域住民を対象とした場）を2回計画しました。

はじめは、参加者が集まるかどうか心配もありましたが、毎回20数名もの受講者が集まりました。

開催のスタイルを工夫したことで、保育園の先生、公民館の職員、社会教育委員、行政関係の職員、地域の方々などさまざまな立場の人の参加が見られるようになりました。参加者からは「参加しやすい時間帯だった。」「学んだことが仕事以外でも役に立ちそう。」「自信を持って人前に立てるようになった。」「といった声を聞くことができました。



【養成講座の様子】

● 養成されたファシリテーターのこれからを応援する

邑南町教育委員会では、親学ファシリテーターの皆さんが活動しやすいように、次のようなことを大切にしています。

- “寄っては散らばる”を繰り返す柔軟なファシリテーターのつながり
- 「PTAの研修会」「子育てを語る会」などの親学を開催する場の提供
- タイムリーな情報や機会の提供
- 親学ファシリテーターの意欲に応じた実践（活躍を求めすぎない。やりたい人から学びを生かしてもらう）
- 学んだことを親学以外のことにも広く活用するための支援



【アイスブレイク体験の様子】

● 教育委員会の思い ~つながりを大切にする~

養成講座を進めることはもちろん大事です。しかし、休憩のお茶の時間も重要な意味を持っていると思います。さまざまな立場の方が、自由に語り合える時間と雰囲気が大切です。参加者同士が次第に関わりを深めることができるようになるように心がけています。

よりよい子育て環境をつくるためにも、ここで生まれたつながりが、さらにより連携・協働に向けての基盤になると考えています。

親学の今!

【大田市】編

今回の「親学の今！」は大田市特集。親学プログラム活用の“好循環”をめざす大田市の取組について紹介します。

大田市では、家庭教育支援の一環として、親学プログラムを推進してきました。長年の取組から、定着してきている面もありますが、「親学活用の場の減少」や「親学ファシリテーターの固定化と減少」等、新たな課題も明らかになってきました。そこで、昨年度から次のことを大事にしながら、親学の取組を進めていきました。



●啓発を通して、活用の場を広げる!

保育園の園長会（1日保育参観）、母子保健推進員の全体会（育児サークル）、市教研看護部会（学校保健委員会、1日入学、就学時健診）、PTA 評議員会（PTA 研修会）といった様々な場で親学をどのように活用できるのかをていねいに説明しています。親学の活用が広がることは、親学ファシリテーターの方が活躍できる場を広げることにもつながります。

●家庭教育支援に関わる新たなファシリテーターを養成する!



活動できる親学ファシリテーターの方が年々減っていることもあり、昨年度、市独自に養成講座を開催しました。新任の公民館主事の方、健康増進課の助産師、社会教育課の社会教育指導員といった方にも参加していただきました。また、親学がどのようなものなのかを知っていただきたい行政職員の方に「親役」として参加していただきました。

●新人ファシリテーターのサポート充実を図る!

新しく養成されたファシリテーターの方が安心して活動できるよう、ベテランのファシリテーターの方とペアになって現場に行ってください。また、実施後のふり返しを行うことで、よかった点や改善点を明確にし、次の一歩に自信が持てるよう、支援を行っています。



打合せでしっかりアドバイスをもらい、当日は細かな部分でフォローしてもらいました!
(新人ファシリテーター)

経験の浅いファシリテーターさんと組むことで、新たな発見もたくさんあり、よい刺激になります。
(ベテランファシリテーター)



大田市を通して依頼される親学だけでなく、親学のよさや有効性を実感された方がそれぞれの現場の実態にあった内容を自発的に実施する親学講座が今後、広がっていけばよいと思っています。そのためにも、行政として親学のよさをアピールするとともに、様々な立場で活躍するファシリテーターの養成やファシリテーターの方のニーズに応じた学びの場を提供していきたいです。

【吉賀町での取組】



吉賀町親学ファシリテーターの会 ～自分たちで広げる家庭教育支援の輪～

吉賀町親学ファシリテーターの会 代表 河内 さくら
吉賀町派遣社会教育主事 中村 浩志

吉賀町では現在15名の親学ファシリテーターが在籍しており、保育所スタッフや公民館主事、学校関係者、SSW等、その職種もさまざまです。また、ファシリテーター同士で『親学ファシリテーターの会』を組織し、定例会を開いて情報交換をしたり、スキルアップのための研修会を開いたりしています。

現在、町内各小学校の就学時健康診断やPTA研修会などがメインの活躍の場となっていますが、呼びがかかるのをただ待っているだけでなく、自分たちで親

学実施の場をつくるために、日々模索しています。令和元年度には、自分たちの主催で乳幼児とその保護者対象のイベントを開催することができました。

コロナ禍ということもあり、集う場を設けることは難しい状況にありますが、私たちは簡単にはあきらめません！行政任せにせず、自分たちから保護者同士のつながりや家庭教育支援の輪が広がっていくよう、活動を続けていきたいと思っています。



スキルアップ研修会

PTA研修での親学プログラム

皆さんが、親学での学びを大切に、新たなつながりを作ろうと主体的に活動していらっしゃる姿に熱意を感じます。新型コロナウイルス感染拡大の影響で外出の機会が減ったり、外出できたとしても周囲へ気軽に話しかけられなかったり、保護者が地域に繋がりを作りづらくなっています。子育てが孤育てにならないように、つながりの輪を広げていける活動を今後も継続してほしいと思います。

(益田教育事務所 社会教育スタッフ企画幹)

しまねの社会教育だより NO.34 より

(8) 一日入学、就学時健康診断での活用

【隠岐の島町での取組】

隠岐の島町においては、平成23年度より、町内の全小中学校において就学時検診および一日体験入学に「親学プログラム」を活用した講座を開催しています。

就学時検診や一日体験入学は、保護者がはじめて顔をあわせる場であり、多かれ少なかれ不安感をもって集う場です。そのような場で、楽しく、体験的な参加型学習を用いた「親学プログラム」を活用すると、保護者同士のあたたかいつながりが生まれてきます。実際、参加した保護者からは「入学する前で、子どもも自分も不安だったけど、安心できました。」「不安な気持ちだったのは自分だけじゃなかった。」といった感想が聞かれました。

全小中学校で実施するので、親学ファシリテーターの負担も心配されますが、事後にはプログラムの振り返りをして、「次はこうしたい」と意欲を持って取り組んでいただいています。

プログラムの実施にあたっては、学校の規模や就学時検診・一日体験入学の日程等が各校によって違うため、プログラムの時間配分やワークシートの内容等を工夫し、実態に合わせて実施しています。プログラム進行には、町教委の職員が同行し、必要なサポートをして、親学ファシリテーターに寄り添うようにしています。



(9) 親学プログラムの普及・親学ファシリテーター支援
 [松江市での取組]

親学プログラム活用紹介 [松江市]

松江市では、家庭教育支援事業の一環として、親が安心して子育てができるように保育園・幼稚園・小学校等を中心に親学講座の普及・活用に取り組んでいます。

親学実施の流れ



松江市の親学 今後へ向けた動き

- すでに活躍している親学ファシリテーターに協力いただき、新たなファシリテーターを育成するために“親学ファシリテーターの養成講座”を周辺の市と共催しています。
 また、ファシリテーター同士のつながりを深め、親学ファシリテーターとしての資質・能力を高めるため、“フォローアップ講座”を養成講座と兼ねて開催しています。将来的には、ファシリテーターの自主的な活動として市内各地での展開をめざしています。



■ 親学実施のPR

小学校教頭会、市PTA連合会にて親学プログラムの説明をしています。平成28年度は親学ファシリテーターが市の担当者と同行し、それぞれの会の参加者に親学プログラムを体験してもらいました。



- 学校支援地域コーディネーター・放課後子ども教室コーディネーター・親学ファシリテーターの三者がともに学びあう場として、合同研修会を実施しています。
 思いを共有し、つながり合うことで、地域ぐるみの子育て体制づくりや人づくりをさらに推進します。



9 「親学ファシリテーター」をコーディネート（派遣）するときに気をつけることは？

「親学ファシリテーター」の派遣について、次のような点に留意してください。

(1) 「親学ファシリテーター」との事前打ち合わせの実施

「親学ファシリテーター」から希望があった場合、および特別な配慮を要する場合等に、「親学ファシリテーター」との事前打ち合わせを行います。打ち合わせの内容は、“プログラムの選択”“ワークショップの進行方法”“アイスブレイクの紹介”“その他の留意点”などです。

また、親学講座の実施前に「親学ファシリテーター」が直接主催者側と連絡をとり、会場や参加者の実態、主催者側の思いなどを直接確認するようにしてください。

(2) 実際のファシリテート支援

親学講座に「親学ファシリテーター」を派遣する際、経験の少ない方が進行される場合は、できるだけ市町村担当職員も同行し、進行する際の援助、ワークショップ後の振り返りをいっしょに行います。

また、職員が同行できない場合には、経験豊富な「親学ファシリテーター」とチームで実施し、振り返りを行うようにします。

(3) 教材・教具の貸し出し

「親学プログラム」「親学プログラム2」は、さまざまな参加型学習の手法を取り入れているため、内容によってはいろいろな教材・教具を活用します。“準備期間が短い”“準備が難しい”等の理由で教材・教具の用意ができない場合は、社会教育研修センターにご相談ください。

(4) 「親学プログラム2 [実施版]」の実施にあたって

「親学プログラム2」は、いじめや児童虐待予防につながる親の力・地域の力を育成することをねらったプログラムです。そのため、「配慮が必要なプログラム」がいくつかあります。

「配慮が必要なプログラム」の実施を検討される場合は、「親学プログラム2 [実施版]」のp 13 - 19をご確認の上、特に、企画実施者（主催者）と親学ファシリテーターとの事前の打ち合わせ綿密に行い、親学ファシリテーターに過度な負担がかからないように配慮してください。

10 「親学プログラム」と「親学プログラム2」の違い・関係は？

「親学プログラム」「親学プログラム2」どちらも、参加型学習を用いて、“楽しく”“互いに”“体験的に”“親同士の学び合いにより、「親（大人）としての役割」や「子ども（子どもたち）とのかわり方」についての気づきを促す学習プログラムという点では同じです。

しかし、「親学プログラム」は、“わが子との関係性”における気づきをねらうものでしかありませんでした。そこで、新たに開発した「親学プログラム2」では、“他の子・他の親・学校・地域等の関係性”における気づきをねらうことに重点をおいています。言い換えれば、右図のように、「親学プログラム」は『家庭内における親の学び』を、「親学プログラム2」は『家庭外、つまり、地域社会における親の学び』をそれぞれ提供するものと言えます。



「親学プログラム」と「親学プログラム2」は、別々の視点から親の役割・機能を支援するとともに、相互の気づきをより深めることで、親自身の人間的な成長を支援する学習プログラムとなっています。親自身の自己実現をめざす2つの学習プログラムの関係を図示すると、右の図のようになります。

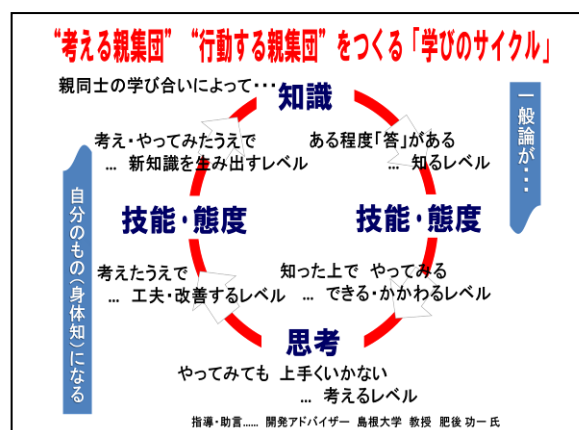
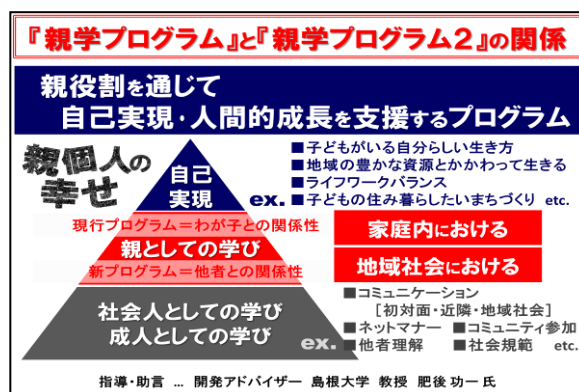
このように、「親学プログラム」と「親学プログラム2」をセットで活用することで、はじめて、真の意味での家庭教育支援策となり得ると考えています。

2つの学習プログラムをセットとして、繰り返し『親の学び』を提供することで、“学んで”“やってみ

て”“さらに考えて”“やってみる”という新たな学びを獲得する“学びのサイクル”を創出し、『考える親集団』『行動する親集団』をつくる一助となり、ひいては、いじめや児童虐待など喫緊の社会的課題の解決にもつながるものと考えて開発・普及に取り組んでいます。

上記のように、本センターでは、『親の自己実現』のため、『考える親集団』『行動する親集団』つくりのため、「親学プログラム」と「親学プログラム2」をセットとして、シリーズでの研修・講座の開催をすすめています。

効果的なシリーズ実施については、「親学プログラム2 [実施版]」のp9-12に詳しく記載していますので、参考にしてください。



11 「親学プログラム」「親学プログラム2」の教育的な効果は？

これまでの「親学プログラム」「親学プログラム2」の普及状況から、教育的な効果について分析・検証してきました。ここでは、下記の3点について紹介します。

- (1) 「親学プログラム」の教育的な効果
- (2) 「親学プログラム2」の教育的な効果
- (3) 5回シリーズ実施の教育的な効果

(1) 「親学プログラム」の教育的な効果

松江市教育委員会生涯学習課の協力を得て、「親学プログラム」を活用した研修・講座の受講者の感想をもとに、テキストマイニングを活用して分析しました。

データサンプルは、下表の通りで、337の感想をもとに分析しました。

テーマ	プログラム	データ数	小計
親子のコミュニケーション	聞く耳ってどんな耳？	103	230
	子どもに伝えるのって難しい！	21	
	私のほめ方・しかり方	97	
	心に響く伝え方	9	
生活リズム	目指せ！早寝・早起き・朝ご飯	43	43
しつけとルール	親のしつけは子どもへの大切な贈り物	10	16
	しかる基準は？	6	
個性と夢	わが子のPR～短所も長所～	48	48
合計			337

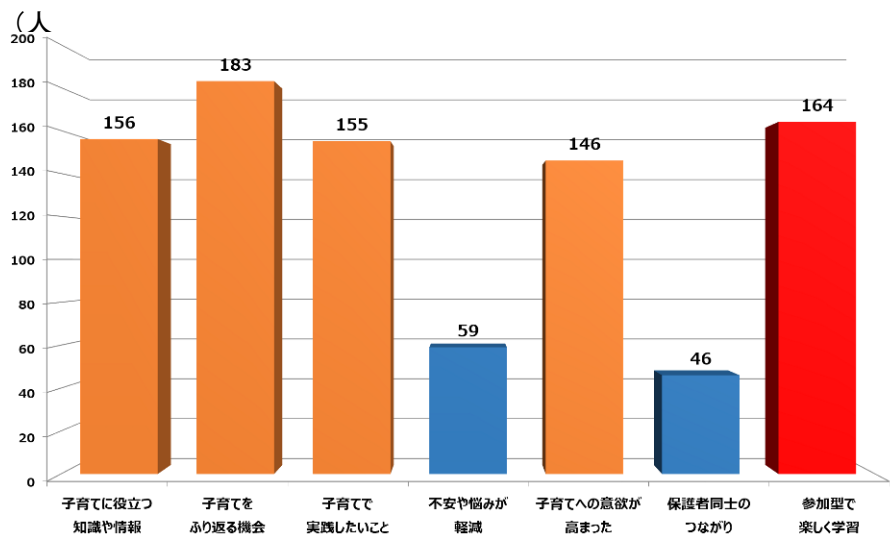
分析にあたっては、下表のように、感想の中のキーワードをピックアップして、グループ化しています。

Key Word						
勉強	参考	意見	情報	他の保護者	たくさん	感心
大事	聞く	ためになった	具体例	経験	姿勢	
驚き	よいこと	新鮮	言葉	1秒の魔法	アイ・メッセージ	セロトニン
見方	新しい発見	こういうやり方	親の数だけ子育て	尊重	驚き	気づき
感心	発想の転換	目のつけどころ	よい方向に	心を広く		
反省	改めて	きっかけ	自分の感情	言い訳	態度	申し訳ない
改めて	思い返す	気をつけよう	気を取り直す	できている	再確認	親も一緒に育つ
実感	よくある	体験	直接	深く考える	子ども役	うれしい
しみじみ	現実	日常	子ども心	普段の行動	体で感じた	
短く分かりやすく	メリハリ	真似	使っていこう	入ってくる	使わせてもらう	これだ！
一呼吸待つ	一歩引く	目を見て	心で聞く	一歩引いて	声のトーン	一貫性
子どもの気持ち	受け止め	認める	共感	抱っこ	子どもの身になって	逆の立場
立ち止まる	冷静	落ち着き				
変えていく	整える	工夫	改善			
同じ	悩み	同感	我が家と	みんな一緒	どこの家も	これでいい？
これでいい！	苦勞	同じ思い	共有	ウチだけじゃない	たいへん	
安心	自分だけじゃない	気持ち楽	ホッと	他の家庭も		
認められて	気持ちが軽く	気分転換				

そのグループをいくつか統合した結果、次の7つの観点で感想を分類・整理しました。

- ① 子育てに役立つ知識や情報を得た
- ② 自分のこれまでの子育てを振り返るいい機会になった
- ③ 子育てで実践したいことが見つかった
- ④ 悩みや不安が軽減した
- ⑤ 子育てへの意欲が高まった
- ⑥ 保護者がつながるきっかけとなった
- ⑦ 参加型で楽しく学習できた

337 のデータサンプルを数値化し、グラフに表すと次のページのようになります。



337 人の半数以上、もしくは、約半数の方が、「自分の子育てを振り返るいい機会になった」「子育てに役立つ知識・情報を得た」「子育てで実践したいことが見つかった」「子育てへの意欲が高まった」と感じています。この4つが「親学プログラム」の教育的な効果と言えます。

また、「参加型で、楽しく学べること」も、「親学プログラム」の教育的な効果をさらに高めていると考えています。

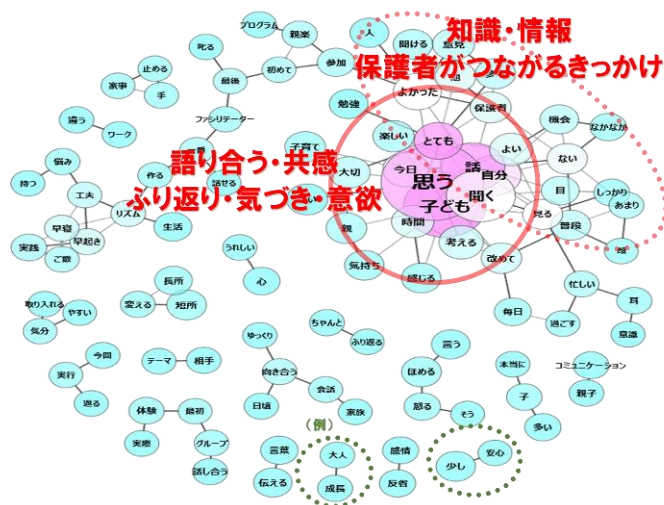
さらに、「子育ての不安や悩みが軽減した」「保護者同士のつながりのきっかけになった」ということも、副産物としての教育的な効果だと言えます。

次のページの図は、テキストマイニングのソフトを使って、作成したものです。線で結ばれたキーワードが、感想の中で、ともなって出てきたことを表しています。円の大きさはキーワードが出てきた回数を表しています。

例えば、「大人」と「成長」が線で結ばれています。感想の中に「大人も子どもと一緒に成長していきたい」といったものが多くありました。また、「少し」と「安心」も同様に、「いろいろ話をしたり、聞いたりして、少し安心した」といった感想が多くありましたが、そのことを表しています。

赤の点線で囲ったあたりは円も大きく、線も複雑になっていますが、「他」の「保護者」から「参考」になる「意見」が「聞けて」「とても」「よかった」とか、「普段」「話す」「機会」が「ない」「保護者」と「話」をして「よかった」などの感想が多いという結果を表しています。つまり、親学を通じて、子育てに役立つ知識や情報を得たことや、保護者同士がつながるきっかけになったことを裏付けています。

また、一番円が大きくなっている赤の実線で囲ったあたりは、「改めて」「子育て」について「考える」「いい時間」になったとか、「自分」の「話」をしたり、「他」の「保護者」の「話」を「聞いたりして」「とても」「よかった」など、互いに語り合う中で、共感し合い、自分の子育てを振り返るよい機会になったということなどを、裏付けています。



(2) 「親学プログラム2」の教育的な効果

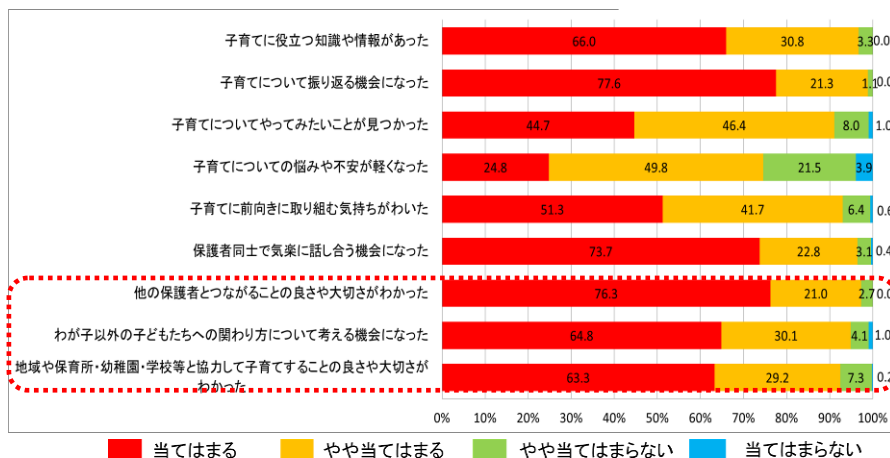
平成26年度に「親学プログラム2 [試行版]」、平成27年度に「親学プログラム2 [実施版]」を完成させ、下表のように、試行実施を、県内45会場で、1127人を対象に行いました。

そのうち、共通のアンケート調査を23会場の参加者523名に行いました。アンケート項目は、次の9点です。

- ① 子育てに役立つ知識や情報があった
- ② 子育てについて振り返る機会になった
- ③ 子育てでやってみたいことが見つかった
- ④ 子育てについての悩みや不安が軽くなった
- ⑤ 子育てに前向きに取り組む気持ちがわいた
- ⑥ 保護者同士で気楽に話し合う機会になった
- ⑦ 他の保護者とつながることの良さや大切さがわかった
- ⑧ わが子以外の子どもたちへのかかわり方について考える機会になった
- ⑨ 地域や保育所・幼稚園・学校等と協力して子育てすることの良さや大切さがわかった

この9項目の集計結果をまとめると次のようなグラフとなります。

標本数 523人



このように、下の3項目「地域や保育所・幼稚園・学校等と協力して子育てすることの良さや大切さがわかった」「わが子以外の子どもたちへのかかわり方について考える機会になった」「他の保護者とつながることの良さや大切さがわかった」の当てはまる割合が際だって高くなっています。「親学プログラム2」によって、多くの親が、他の親や地域、学校等とのつながりやわが子以外の子どもたちとの関わりの大切さに気づくことにつながっているとと言えます。

「親学プログラム2」がねらう『家庭外、つまり、地域社会における親の学び』をしっかりと提供できている結果だと受け止めています。さらに、下記ようなアンケート調査の主な自由記述があります。この記述からも、「親学プログラム2」がねらう気づき・学びに迫っていると考えています。

(プログラム1-⑤)

今以上に、人とのつながりを大切に日々生活していけるよう、我々大人が子供の手本になる存在であり続けたい。

(プログラム2-②)

大人として何か臆病になっていた部分もあって、改めて子どもとの接し方を考え直す機会となった。

(プログラム2-③)

親の責任は感じているが、もっと楽しんだ方がよいのではないかと感じた。楽しんでいる親や地域の大人を見た子どもは悪い方向へいかないのではないかと感じた。

(プログラム2-④)

あいさつ運動に真心をこめて取り組む。地域や保護者、学校の先生が仲良くなって、力を合わせて活動していこうと思った。

(プログラム3-②)

あたたかいグループの中で、安心して話したり、聴いていただいたりしているうちに、子どもたちのいじめについて話しているのに、とてもあたたかい気持ちになった。子どもたちにとっても、このような温かい、安心した関係と時間が大切なのかもしれない。

(プログラム3-③)

「これまで通り愛されているぞ」ということを、いろいろな場面で伝えていこうとあらためて思いました。

(プログラム3-④)

自分だけでは、ネットのことを知るのを難しい面もあるが、人といっしょに話したり研修したりすることで、より理解が深まった。このような場に積極的に出ていくことも大切だと感じた。

(プログラム4-③)

児童虐待について社会全体で考えていくことが大切。子どものことばかりではなく、子育てを頑張っているお父さんやお母さんの気持ちを考えないといけないと、改めて感じた。

(プログラム1-⑤)

いろいろな人がいろいろな考え方をしているなあと改めて感じた。ただ、どの人も子どものためにという気持ちは同じなので、それを大切にして地域づくりをしていけばいいのかなと感じた。町内の方々に子どもの心を育ててもらえたら…と思うので、今まで以上に町内行事に親子共々参加したいと思う。

(プログラム2-②)

自分の子ども以外の地域の子どもに対して、大人としての役割があることを感じました。小心者なので「一声かける」ができないこともあると思いますが、勇気を出すためのきっかけになりました。

(プログラム2-⑤)

家族を大切に、幸せな明るい人生が歩めるように、これからやっていこうと思う。親同士が仲良くなることで、子育てがしやすくなる感じた。

(プログラム3-④)

まだ、子どもが小さくスマホ、ネットに関心を持つことはないが、今後、考えていかないといけないことだし、これからもっといろいろなものが新しく出てくると思うので、話し合うこと、情報を得ること、学ぶことの大切さをあらためて大事にしたいと思う。

(プログラム4-④)

現在続けている、登校時のあいさつ、見守り活動を継続していこうと思う。他の家族に対する思いはあまりなかったが、気づくことのできる立場になったら、声をかける人間になりたいと思う。自分の子育てが正しかったか常に意識していくようになりたいたいと思った。親子、夫婦、家族でこんな話をしていくことも大事だと思う。

参考文献等

- 1) 『島根大学生涯学習教育研究センター年報 平成 23 年度第 9 号』島根大学生涯学習教育研究センター 平成 24 年 10 月
- 2) 『つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～』文部科学省「家庭教育支援の推進に関する検討委員会」 平成 24 年 3 月
- 3) 『平成 23 年度 家庭教育支援の効果に関する調査研究 報告書』株式会社三菱総合研究所 平成 24 年 3 月
- 4) 『つなぐ・つながる実践発表交流会』実践発表「松江市での親学の歩みとこれから」 松江市教育委員会 平成 26 年 12 月